

競技内容（屋外消火栓の部）に関することについて（R6）

○ 点検要領について

実施要領では競技前に点検を実施する旨記載されているが、出場チーム数の増加及び競技時間の短縮等の理由から、今回の大会においても省略するので、操法指導の際に説明しておくこと。

○ 集合要領について

実施要領に記載されているとおりであり、訓練礼式は「消防」の基本であるため、指導の際には競技者に対し十分周知すること。
なお、審査においては、昨年同様、この要領に基づき実施することとする。

○ 指揮者が搬送する第3ホースの設置方法について

延長をしなければ、ホースを置く向き等は一切問わない。延長の準備は認める。

（例）延長方向に向け、ホースを立てて置く等（実施要領p3）

○ ホース結合の確認動作について

手元を引いて完全に結合されているかの確認動作を行って「よし」と呼称すること。要領にも記載していることだが、完全に結合されていないと危険なので念のため。

なお、ホースの結合確認と呼称がなかった場合、別々に減点を取ります。（実施要領p3）

○ 「増加ホース結合」の操作開始時期について

第一標的の注水が完了し、指揮者の「増加ホース結合」の号令後、1番員の「よし」を受け、第3ホースを延長すること。この時、1番員が「よし」の呼称を言い終わるまでは1・2番員は注水姿勢を保持することになるので、第3ホースを延長する隊員が第3ホース側に態勢をとること及び第3ホースに触れることは認められない。（実施要領p3記載）

○ 手信号及び3番員の復唱について

指揮者は、「放水始め」「放水止め」「おさめ」と号令すると同時に手信号行うこと。

3番員は、指揮者の「放水始め」「放水止め」の号令に、正対して復唱すると同時に手信号を行うこと。つまり、手信号は、基本の姿勢から行うものとし、放口弁等を持ったままの姿勢での復唱は、「復唱」とは認めない。（実施要領p3）

○ 消火栓放口弁のロックピンについて

放口弁を閉鎖する場合はロックピンを解除しなければ、放口弁が動かない。このことを忘れて放水が止められない場合は、危険な状態であるとみなし、審査員がロックピンの解除を指示するとともに操作上の失点5点（審査表No.45に該当）を加える。（複数回指示があった場合は、それを加算する）（実施要領p4）

○ ホース及び筒先の搬送方法（収納時を含む）について

自由です。

○ 使用するホース長さについて

実施要領において、ホース長さのことに明記されていないが、競技の公平性を期すため、競技に使用するホース長さは、全長（接手部分含む）が19m～21mの範囲内のものしか使用できないこととする。なお、競技受付後に会場内で審査員によるホース確認を行うので、各チームは開会式までに確認を受けること。（実施要領p6記載）

○ 収納の計時終了について

収納が完了し、指揮者を含めた全隊員が集合線にかかとを揃えて番員の順番に整列した時とし、この時、全員が火点側を向き、静止すれば計時は終了する。全員が集合線に整列しても、番号順に並んでいなければ、計時は終了しないので念のため。

なお、全員が集合完了せずに次の行動（指揮者の点検）に移行した場合は、その時点で審査員から一時停止の指示を行い、操作上の失点5点（審査表No.43に該当）を加える。（実施要領p12記載）